

スノボに連れていかれた私

久留米県土整備事務所 金子 雄大

私には熱中して止まないものがある（冬限定）、そう、それはスノーボード。九州は雪がほとんど積もらないので、馴染みのある人は少ないと思う。西日本でも人工の雪で頑張っって無理やりコースを作れるスキー場がいくつかあるので、暖冬でも楽しむことができる。気温が高いときはシャリシャリのシャーベット状になってしまうが。

私を感じるスノボの魅力は大きく3つある。一つ目は爽快感だ。長さ150cmほどの一枚の板をブーツに固定して雪山を滑るのだが、斜面が急になれば車並みの速度がでることもあり、そのスピードをコントロールして、風を切り滑走していく瞬間は爽快で気持ち良い。今は自分の滑走するスピードや標高、距離などがGPSで計測できるアプリがあって、見返すと50km/hを超えていたときは驚いた。自分の思い通りにターンしたり、トリックに挑戦したり、地形やジャンプ台（小さいやつ）で飛んだり、他にも遊べる要素がたくさんあり、やっっていて飽きないしとても楽しい。



二つ目はやっぱりカッコ良さ。ゲレンデに行っって上手い人がいると、目を引かれるし、めちゃくちゃカッコ良い。単純にスノボの上手さに加えて、ウェアの着こなしやシルエットがハマっっているとよりカッコ良くみえる。スキー場でよく言われている「ゲレンデマジック」という言葉がある。それはスキー場だと3割増しで女の子が可愛く見え、男も映える現象のことだ。マジックの効果もあり、途中の斜面で座り込んでいる女の子がいると、どうしても調子に乗っってカッコつけてしまうのは男の性だ。大体そういうときは板のエッジが引っ掛かりコケる。この現象の名前を誰か知らないだろうか。上の写真がまさにそれで、派手に転倒している瞬間である。決っしてこういう技ではない。こういう場合は2秒で起き上がり、何事もなかったかのように立ち去り、記憶から抹消する。



三つ目は非日常さである。九州にいるからこそかもしれないが、真っ白に染まった銀世界にいるだけで非日常的で心躍る。澄んだ空気の中で、風を切り裂き、自分の足の感覚だけを頼りに雪上にラインを刻んでいくのが最高で病みつきになる。日本には数百か所もスキー場があるが、西日本のスキー場にしか行ったことがないので、これから全国のまだ見たことがない絶景のゲレンデへ行ってみたい。それを楽しみに毎年冬を待とうと思う。

拙い文でざっくりスノボの魅力について語ってきたが、もしこれを見てスノボに行きたい人がいたら、ぜひいきましょう！

今のところ、スノボのことしか書いていないが、もちろん仕事中は業務にかなり集中しているので、スノボのことなど微塵も考えたことはない！

最後に大切なことを一つ。はしゃぎ過ぎて、仕事に支障が出るような怪我をしないようにしたい。



いつもの如く脚がつっている K 木さん (久留米県土)